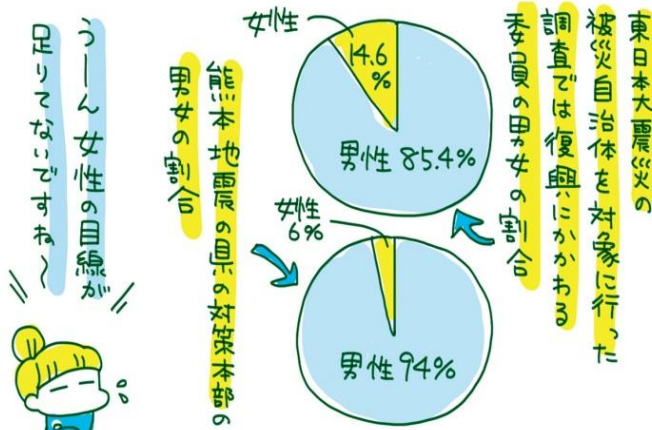


① 災害とジェンダー



東日本大震災では、復興にかかわる委員の85.4%は男性だった。そこで防災に関わる意思決定者に女性がいなくて、下記のように女性がつらいおもいをした。その教訓から、避難所運営に女性の視点を入れる重要性が言われている。そこで国・自治体の防災会議では30%は女性を入れるように目標を設定している。埼玉県では10%のみ達成している。

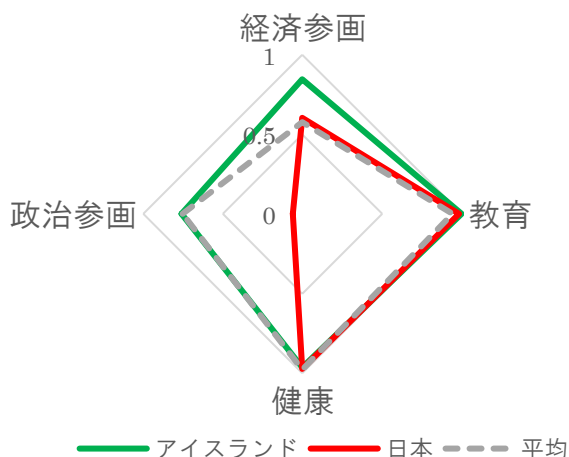


【「対価型」の性暴力】

- ・津波で1人になった20代女性に、避難所で物資の搬入や仕分けのリーダー格の男性が、支援物資を融通することをほのめかして性的関係を強要した。
- ・自称「支援活動」の男性が、支援者として女性に近づき、不安になっている女性に自分の家へ「避難」を勧めた。

「東日本大震災女性支援ネットワーク」調査報告書より

ジェンダーギャップ指数



<ジェンダーギャップ指数>

ジェンダーギャップ指数は、経済・政治・教育・医療の4分野に分かれている。日本は153国中121位であった。(アイスランドが1位)

アイスランドもかつては、女性の所得が男性の3割少なかった。そこで女性たちは「同一労働・同一賃金」のストライキを起こしたことがきっかけで、男女同一労働・同一賃金とする法律も2018年にできた。

2010年には女性リーダーを割り当てる(4割)クォーター制も導入されている。

NHK 未来へ17action「世界で1番ジェンダー平等の国」より

JICA「女性の視点に立った防災」が必要」2021

〈質問〉「女性の視点からの防災」とはどんなことを考えたらよいのでしょうか？
具体的に考えてみましょう。

B 仙台市荒浜小学校と浦和北高校の備蓄

■指定避難所の備蓄物資 (仙台市の備蓄基準量)

品目	数量
飲料水	1,200本(500mlペットボトル)
クラッカー	630食分
アルファ米	1,200食分
アルファ粥	50~100袋
毛布	100枚
簡易トイレ	300枚
組み立てトイレ	和式2基・洋式3基
救急セット	1~2セット
大型扇風機	3~4台
情報収集用テレビ	1台
ホワイトボード	1台
テント式プライバシールーム	2基
LPG発電機	3台
LED投光器	5セット
避難所運営用品	1セット
災害時多言語表示シート	1式
使い捨てカイロ	600個
ハンズフリーメガホン	2台

■緊急一時避難場所である

荒浜小学校の備蓄物資

配置場所：校舎4階音楽室倉庫

備蓄内容：200人相当

品目	数量
飲料水	400本(500mlペットボトル)
えいようかん	600本
クラッカー	300食分
毛布	200枚
簡易トイレ	600回分
組み立てトイレ	2セット
発電式ラジオ付ライト	5個

仙台市荒浜小学校は、東日本大震災の大津波の被害を受けた。これまで荒浜小学校は、緊急一時避難場所に指定され、年1回は地域住民と避難訓練も実施していた。

津波は2階(地上4.6m)まで及び、車や流木が流れ込んだ。備蓄物資は4階音楽倉庫に保管してあった。そして避難してきた児童・教職員・地域住民320名全員の命が助かった。

当時荒浜小学校の川村校長の話によると、校長は前年から荒浜小学校に赴任したばかりであった。そこで備蓄の一部(毛布など)が体育館1階にあったことを知り、津波に備え4階に全て移動した後の出来事だった。

＊現在の備蓄は、見直しされている。
＊仙台市ではミルクと哺乳瓶は市役所の集中備蓄としている。

(JICA 教員研修のインタビューをもとに文章化した)

災害拠点校の浦和北高校の備蓄【在校生教職員 約1000人】

品目	数量
乾パン	3300食
アルファ米(白米)	3750食
レトルトがゆ	990食
肌着(男女ML、子供)	合計900枚
タオル	1000枚
ローソク	500本
毛布	1000枚
更衣ボックス	10個
避難所シート	20枚

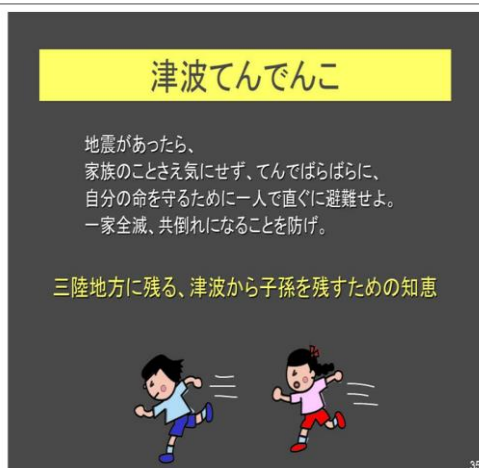
【ライフラインとスフィア基準】

東日本大震災でのライフラインの復旧期間は、電気6日>水道24日>ガス34日であった。

スフィアハンドブック2018日本語版によると、1人当たり必要な水の量は1日15リットル、トイレは20人につき1つと決まっている。男女別でのトイレの比率は、女性3対男性1と決められている。(最低基準)

〈質問〉荒浜小学校・浦和北高校の備蓄に関して、良い点と改善点を考えてみましょう。

㊦ 釜石の奇跡「津波てんでんこ」

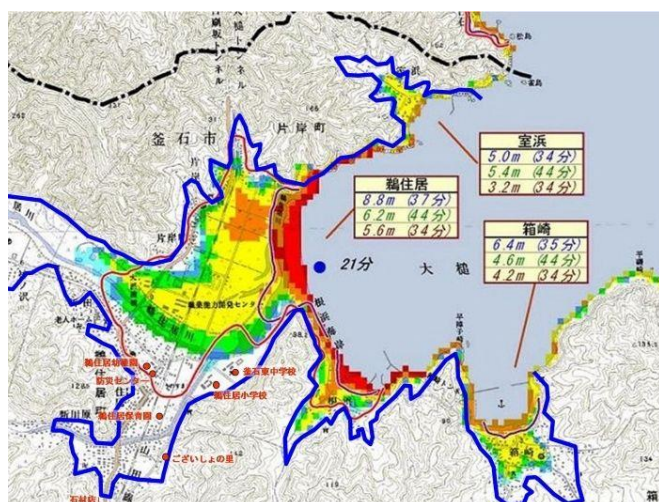


＜津波てんでんこ＞

「てんでんこ」は、「各自」「めいめい」を意味する名詞「てんでん」に、東北方言の縮小辞「こ」が付いた言葉。防災教訓として解釈すると、それぞれ「津波が来たら、取る物も取り敢えず、肉親にも構わずに、各自てんでんばらばらに一人で高台へと逃げろ」「自分の命は自分で守れ」になる。

＊避難するときに複数で避難した人の割合は、女性の 82.1%であり、男性は 64%であった。

（平成 24 年版男女共同参画局より）



＜防災教育前＞ 片田教授（現東京大学特任教授）は釜石市の小学校での防災教育を担当していた。教育前は「津波があっても逃げないよ」と言われた。なぜなら、何度も津波の被害を受けている釜石では、世界最大級の湾口防波堤が築かれていた。子ども達は、「お金をかけた防波堤があるのに、なぜ逃げねばならん」という意識が強かったことという。また市民からは「市が配ってくれるハザードマップの浸水想定境界線に入っていないから大丈夫」と言われていた。



＜避難の3原則＞

マグニチュード 9.0 の地震発生後、釜石市東中学校の生徒たちは直ちに学校を飛び出し、高台をめがけて走った。彼らの姿を見て、近所の小学生や先生たちや、地域住民が後に続き、駆け上がって全員が難を逃れた。そこには避難の 3 原則①想定にとらわれるなくハザードマップは信じるな②状況下で最善を尽くす③率先避難者となるの 3 つがあった。児童生徒はその教えを守り、ハザードマップを超えた津波にも対応でき、「釜石の奇跡」と称賛された。

「人が死なない防災」片田敏孝

＜質問＞「釜石の奇跡」から、得た教訓はなんでしょうか。

また、私たちの災害対策に活かせることは何があるでしょうか。

- 1、マイ備蓄より、おすすめしたい、安心するグッズを教えてください（個人/共有）

- 2、他の人の備蓄を見て感じた事や足りないと思ったもの（個人）

- 3、資料A～Cの質問を個人で考えてから、グループで共有していきましょう！！

資料（ ）	個人▲
エキスパート活動▲▲▲	

- 4、各資料をジグソーメンバーに伝える。そこで聞いたことをメモする

資料（ ）メモ
資料（ ）メモ

- 5、過去の災害から学び、女性はどんな課題（困りごと）がありましたか？また、その課題解決のためには、どう対処すればいいのでしょうか？【困りごとと解決策】
ジグソーメンバーで話し合い、書いていきましょう。！（発表）

箇条書きに3つまで	ジグソー活動▲◆◆
1、	
2、	
3、	

- 6、グループ発表を聞いて、思ったこと、感じたこと。

クロストーク

7、これまでの学習を基に、常盤女子に必要な備蓄には何がありますか？理由も考える。

- 1、
- 2、
- 3、

そのほか、授業の感想や意見など



皆さんが学習したことが今後に活かされることを期待します。ありがとうございました。牛坂